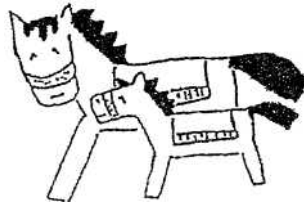


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

23年 5月 NO. 198



〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

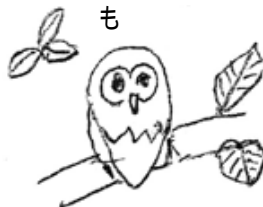
~どなたでも~		5月の主な活動	~お気軽にどうぞ~
5月 7日	土	体験保育 10:00~12:00	同じ年齢のクラスに入って あそびましょう。
5月 12日	木	園にて花まつり 10:00~11:00	おしゃかさまのお誕生をお祝いする 行事においで下さい。
5月 14日	土	木工教室 14:00~16:00	木製品を手づくりしたり、 修理もできます。
5月 21日	土	体験保育 10:00~12:00	出産予定の方も子育て体験にどうぞ。
5月 24日	火	健康・育児相談 11:00~12:00	小児科園医師にゆっくり 相談できます。(予約要)
5月 26日	木	香川みすゞさんの会 14:00~16:00	FM高松のディレクター・パーソナリティの ANRI(アンリ)さんから「性同一性障害と社会の 意識」について、お話していただきます。
5月 27日	金	おはなしの会 10:00~11:30	手あそびや本読み、パネルシアターなど 楽しいことがいっぱいです。

<ul style="list-style-type: none"> ・毎火曜日 園庭開放(13時~16時) ・上記の活動日以外は13時~18時まで地域開放します ので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み) 	育児相談(月~土)9:00~18:00 しつけや子育てについての悩み、 保育園生活、入園・見学について の相談もどうぞ。
---	--

金子みすゞ
童話全集6
さみしい王女・下より

ねんねよねんね、
日のくねがたは、
ほっかりとお眼さ
電灯のたまは、
森のほうぼう、
みみずくばかり。

ねんねよねんね、
日のくねがたは、
あのお丘の白いお
おねの硝子のよ家
あおの硝子のよ家



ねんねよねんね、
日のくねがたは、
つねにきたあか
おねの来たあか
おそねの来たあか
おほくをたれ



ACジャパンのテレビコマーシャルで 「こだまでしょうか」が流れています。

「遊ぼう」というと「遊ぼう」という。東日本大震災後に、ACジャパンのテレビコマーシャル(CM)で繰り返し流れている童謡詩人・金子みすゞ(1903~30年)の詩「こだまでしょうか」が人々の共感を呼んでいる。書店に詩集の注文が相次ぎ、みすゞの出身地・山口県長門市の金子みすゞ記念館にも問い合わせが殺到。NPO法人「金子みすゞ顕彰会」などは、被災者たちを励まそうと詩集を被災地の小学校などに届ける準備を始めた。

記念館によると、「こだまでしょうか」は1927年(昭和2年)頃に詠まれたが、当時は発表されず、みすゞの遺品の手帳から発見された。ACジャパンは、人と人のやさしい会話のきっかけになることを願い、東京地域のキャンペーン用CMとして昨年7月から放映を始めた。

震災後、全国で頻繁に流れるようになってから「詩にどんな意味があるのか」「どの詩集に収録されているのか」とACジャパンに問い合わせが相次いだ。「こだま」を収録する詩集「わたしと小鳥とすずと」を出版するJULA出版局(東京都文京区)には、全国の書店から1万冊以上の注文が寄せられた。

中国新聞より

「こだまでしょうか」

「遊ぼう」「遊ぼう」と
「遊ぼう」「遊ぼう」と

「ばか」「ばか」と
「ばか」「ばか」と

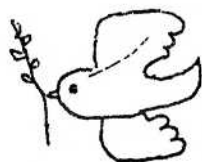
「もう遊ばない」「もう遊ばない」と
「遊ばない」「遊ばない」と

そうして、あとで、
さみしくなつて

「ごめんね」「ごめんね」と
「ごめんね」「ごめんね」と

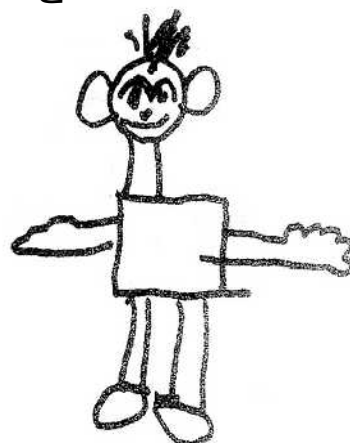
「こだまでしょうか」
いいえ、誰でも。

金子みすゞ童謡全集
より



金子 みすゞ

本名、金子テル。明治36年(1903)山口県大津郡仙崎村に生まれる。大正末期から昭和の初期に、すぐれた作品を発表し、西條八々に「若き童謡詩人の巨星」とまで称賛されながら、昭和5年(1930)26歳の若さで世を去った。



金子みすゞ童謡選集『わたしと小鳥とすずと』(JULA 出版)がペルシャ語に翻訳され、イランで出版されました。みすゞの作品は、これで世界 11 カ国語に翻訳され、多くがその国で出版されています。

日本では同じ童謡選集が 99 版と版を重ね、平成 8 年度からは全国の小学生が国語の教科書の中で、みすゞの作品に出会っています。

みすゞのふるさと、山口県長門市仙崎にある金子みすゞ記念館は、開館 8 年目で 99 万人を超える来館者を迎えています。

なぜこれほどまでに、大きな広がりを見せているのでしょうか。

それは、みすゞの遺した 512 編に共通の「あなたと私」という、深い、優しいまなざしが読む人の心にまっすぐに届いて、忘れがちな、しかし最も大切なまなざしを思い出させてくれるからにちがいありません。

金子みすゞのまなざしは「あなたと私」です。「私とあなた」ではありません。「私とあなた」は、自分優先のまなざしですが、「あなたと私」は、共に生き、共にしあわせというまなざしです。あなたがいて、初めて私は私を認識することができ、あなたにとっては私もまた、大切なあなたになるのですから。

この「あなたと私」の基本は、こだまし合う心です。

「遊ぼう」といえたのは、あなたがいてくれるからです。あなたがいてくれるから、こだまを発することができるし、返ってきたこだまで、自分自身を振り返ることもできるのです。

今度の東日本大震災では、「あなたと私」の大切なあなたが、今、厳しい寒さの続く中、非常に大きな困難に直面しています。私に何ができるか、何をなすべきかを考えて、まず、こだまを発したいと思います。

星とたんぽぽ

青いお空の底ふかく

海の小石のそのよつこに

夜がくるまで沈んでる

昼のお星は眼にみえぬ

見えぬけれどもあるんだよ

見えぬものでもあるんだよ

散つてすがれたたんぽぽの

瓦のすきに、だアまつて

春のくるまでかくれてる

つよいその根は眼にみえぬ

見えぬけれどもあるんだよ

見えぬものでもあるんだよ

金子みすゞ童謡全集より

矢崎 節夫

1947 年、東京生まれ。

早稲田大学卒。童謡詩人佐藤義美、まど みちおに師事した。

長年の努力により金子みすゞの未発表作を含む 512 編の遺稿集を見つけだし、編集、出版、講演を通して感動の輪を広げている。

被災されたみなさんにとって、今、目に見える状況は悲しく、苦しく、心が萎えることばかりでしょう。しかし、目には見えぬけれども、春は必ず来ること、根から芽がでて、花が必ず咲くことを信じ、又、信じ合えるように、みすゞさんのまなざしに立って、しっかりとお返し合いたいと強く思います。

公明新聞より

みすゞと震災

「遊ぼう」というと「遊ぼう」という。「ごめんね」というと「ごめんね」という。震災のニュースの合間に、金子みすゞの詩「こだまでしょうか」がCMで流れる。優しい言葉の繰り返し、被災した人たちの心も和ませてくれるようだ。

みすゞの作品が初めて雑誌に載ったのは20歳のとき。関東大震災が起きたのはその直後だった。遠く下関にいて無事だったが、心を痛めたに違いない。震災で家を焼かれ、母を亡くした子どもたちを思って詠んでいる。「今年はさびしくなりました」

長門市の生家跡に立つ金子みすゞ記念館に聞くと、3年前の四川省大震災でも詩が被災者を慰めたという。中国語に訳された詩集。かの地の仮設学校で子どもたちが、朗読に耳を澄ませた。まっすぐな言葉が胸に染み込んだらう。

つい被災地の人たちに「頑張って」と声を掛けたくなる。とはいえ、まだ半月余り。通りいっぺんの励ましで、悲しみが癒えるはずもあるまい。むしろ「つらい」と言われたら「つらいね」と相づちで返したい。一人じゃないよ、と。

険しい道のりだらう。それでも、みすゞがうたうように、日本中が心を寄せ合って歩みたい。「このみちのさきには、なにかなにかあろうよ。みんなでみんなで行こうよ、このみちをゆこうよ」

中国新聞より

このみち

このみちのさきには、
大きな森があろうよ、
ひとりぼっちの榎よ、
このみちをゆこうよ。

このみちのさきには、
大きな海があろうよ、
蓮池のかえるよ、
このみちをゆこうよ。

このみちのさきには、
大きな都があろうよ、
さびしそうな桑山子よ、
このみちをゆこうよ。

このみちのさきには、
なにかなにかあろうよ、
みんなでみんなで行こうよ、
このみちをゆこうよ。

